

番組対 NHK ほか提訴記者会見における発言（梓澤和幸）

NHK は 2025 年 8 月 16 日及び 17 日、地上波ドキュメンタリー番組「NHK スペシャル」で、「シミュレーション～昭和 16 年夏の敗戦～」というタイトルの前編、後編の 2 回にわたり放映しました。

1941 年（昭和 16 年）夏、官僚、軍人、民間企業から選抜された首相直属の組織「総力戦研究所」が日米開戦のシミュレーションを行い、研究生たちは「軍事のみならず、思想、政治、経済、国力などの総力をあげて戦う総力戦では、日本はアメリカに必ず負ける」という結論に達し、それを内閣に報告しました。それは無視され、昭和 16 年 1 月 8 日、日米開戦に踏みきりました。番組ではその模様が描かれています。

1. この裁判では、飯村穰所長の直系の孫飯村豊氏が原告となり、番組を共同で制作・著作した NHK ほか各社、と「脚本・編集・演出」の石井裕也映画監督が被告です。この番組が故人である飯村穰氏の名誉を毀損し、お孫さんである飯村豊氏の故飯村穰氏に対する追慕感情を著しく侵害することを理由として、550 万円の損害賠償を請求しています。

2. この番組で準主役ともいえる「総力戦研究所」所長とされる劇中人物板倉少将は、好戦的で研究生たちの意見を抑圧し、反対意見の人を脅迫したり、戦地派遣による排除などの手段を用いて、「総力戦研究所」の研究やシミュレーションについて日米開戦を是とする結論に誘導した卑劣な人物として描いた。

3. この劇中人物は、実在した「総力戦研究所」の飯村穰所長がモデルです。

飯村穰所長は、総力戦の研究実績を積み、かねてからその見識により日米開戦には反対で、研究生たちの意見によく耳を傾ける人物でした。劇中人物は、真逆に描かれていたのです。

4. 訴訟の意義

この裁判が戦後 80 年の年末に提起されることの意味を強調したい。

世の中の空気が開戦に流れてゆくとき学識と良心にもとづきそれに反対した総力戦研究所の研究生たち。「日米戦争は必敗。戦争の被害は甚大だ」と主張したが退けられた。飯村穰所長も学識と良心にもとづき研究生たちの自由な討論を導いた。

日米開戦の直前に、戦争の是非を巡って自己の見識と良心を披瀝し開戦に反対した影響力ある人物がいたことを伝えることはマスメディアの大切な役割です。

「歴史は真実を描いてこそ未来への力になる」

そのことの重大性を NHK ほか各社、石井監督に反省して謝罪してもらい、視聴者のみなさまにもそのことを考えていただきたい。裁判をその機会としたい。

いろいろな困難を押して裁判に立ち上がった原告の言葉と姿を生き生きと伝えて下さい。今という時代を共有している飯村穰さんことを伝えていただきたい。 (了)